

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、常にその方らしさを大切にし、共にほのぼのとした生活を送り続けます」の理念の下、個別ケアに従事しています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	GH生活の中、各職員で寄り集まり、カンファレンス等を行いながら常に理念の共有に努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年間の行事としてご家族会始め敬老会・餅つき会等にご参加いただき、私たちの働きかけに対して理解されていただけるよう取り組んでいます。	○ 地域の方とのふれあいはまだまだ少ない為、地域行事に参加したいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所様とは年間行事の餅つき会に御参加いただきしています。ホームの母体が病院で敷地内に位置づけていることから病院の患者様・面会者様等、気軽にお立ち寄りいただいています。入居者様の個人情報を守りながら見学させていただくこともあります。	○ 自家栽培で出来た野菜をご近所の方にお配りするなど、ふれあいの機会を設けていきます。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの行事(餅つき会)の御参加いただいたり、運営推進会議の開催で私たちの環境(取り組み)についてご理解をいただいているところですが、地域行事への参加は少ない為、今後はその場その場に足を運び、地域の方とのふれあいを図っていききたいと思います。	○ ホーム内での行事等に御参加いただいている状況ですが、今後はその場その場に足を運び地域の方とのふれあいを図っていききたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各職員に介護・医療に関する研修を受け、ホームの環境・地域の高齢者の暮らしに役立っています。	○	地域に足を運び認知症介護等について説明会を設けたいと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を活かし日々改善に向けて取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回の運営推進会議の中、ご意見については速やかに取り組み、ホームの介護サービスに活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適宜、足を運びホームの状況をお伝えしながら速やかに連携が図れるよう努めています。	○	市町村との連携を図り地域行事に参加できるよう努めます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用されている入居者様は居られませんが、今後必要な方については活用できるよう支援していきます。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・全職員は虐待等見過ごされることがないように周知徹底しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約書・重要事項説明書を2部づつ発行し利用者様・家族様に説明を行い理解されています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	十分に関わりながら意見をお聞きしています。年3回介護相談員の方からの訪問があり、容易に意見されるよう努めています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各家族様面会の際に、また行事を催す際に各入居者様の身体面・精神面・生活面の説明を行います。遠方の家族様にも電話にてその旨ご連絡しています。	○ 今後、生活状況や心身の状態を手紙等にまとめ、定期的にお渡することで、家族様にとって安心できる環境づくりを目指します。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員は家族様が抱え込むホームに対しての不安や不満について表されるべく関わらせていただいています。契約書・重要事項説明書に苦情相談機関として当ホームの管理者、杵藤地区広域市町村圏組合介護保険事務所及び国民健康保険団体連合会に相談させていただけるように記し家族様にお渡ししています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的のミーティング及び適宜のカンファレンスで職員の意見交換を行い提案についてはGH生活に役立てています。	○ 発案者に偏りがないように努めたいと思います。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	地域のイベントまたは法人内の行事及びホーム企画行事で、職員の人材確保が必要な場合、休日の変更等勤務の変更で業務に支障がないように努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職、またユニットの異動については周りの職員でその方(入居者様)に対してフォローし、精神的ダメージを少なくするよう努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内法人内での勉強会及び外部の研修会に参加しGH生活に役立てるよう努めています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間行事(餅つき会)に他GHの入居者様及び職員(同業者)の方に御参加いただき共に楽しみます。また管理者同士対談の場を設け、交流且つ共にサービスの質の向上に活かせるよう働きかけています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の希望に合わせた勤務表作成。大きな声、元気に挨拶することでその日1日気持ちよく過ごすことができます。また申し送り・(16:50)反省会を設けることでメリハリが出てきました。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	県内で開かれている研修会に参加し、各職員がそこで(研修で)得た収穫を、ホームの生活に役立てられるよう働きかけています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までを速やかに勧める為に、管理者は数回にわたりご自宅に訪問させていただき、少しずつ安心され信頼関係が根付くように努め、入居の際に利用者様の心のダメージを極力少なくするよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にホームにいらしていただき、家族様の気持ち(心)の状態を把握しサポートするよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際に、本人様・家族様の気持ちを把握した上で、適切な方法手段をお伝えし、方向性を見極めていただけるよう働きかけています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居始めはどの方も人的環境づくりから行います。接触の機会を多く設け「この家にいても安心」という気持ちを持っていただけるように努め、信頼関係が築けるよう心がけています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生活を送ります」の理念の下、お互いに支えあう関係作りを念頭に置き生活を送っています。しかし、時に職員からの手助けがその方々(入居者様)の自立度を支えきれなくしてしまう恐れがあるようにも思えます。	○	その方々(入居者様の身体面・精神面)に合わせた自立支援を行わなければならないと考えます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは共に支えていく関係を築いていけるようにと考えていますが、家族様は支援される立場に偏っているように思っています。	○	家族様と共にその方々(入居者様)に支援していけるように努めたいと考えます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年間行事を企画し、本人様と家族様とのふれあいの機会を設け、より良い関係が築けるように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時にバスハイクで入居者様のご自宅周辺を廻ったり、昔利用された場所に足を運んだり、当時の記憶を呼び戻していただいています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共に生活をこなしていただけるよう支えあえる機会を設けています。しかし状況によってご自分の力でされたい方にとっては尊重しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も年間行事に参加させていただけるよう案内し前入居者様・家族様には可能な範囲で参加させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の生活を築けるよう考慮していますが、生活上ホームで設定している入浴時間等については入居者様の希望に添っているとは言えない部分があるとも思います。	○	入浴時間設定は今後入居者様に合わせた時間帯で行えるように検討します。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居直後基本情報として生活歴を含んだ利用者様の情報を収集し現在に至るまでの経過の把握に努めています。	○	生活歴の中で知りえた情報を下にGH生活に活かせるよう努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、共に生活を送りながらその方像の把握に努めています。把握していてもケアに繁栄されていない部分もあるように思います。	○	GH生活の中でケアに活かせるよう検討し遂行します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者様の生活歴から生活を活かした介護計画を立案していますが、まだまだ特徴を介護計画に活かすきれないところがあります。	○	各入居者様の特徴を介護計画に立案しケアに活かしたいと思います。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状の進行・心身の状態に合わせた計画の立案を目指して取り組んでいます。しかし状況に合わせた立案と作成は補足が必要に思われます。	○	現状に即した介護計画の立案に努めます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践後、気づきについては個別の記録ノートに記載し情報の共有に努めています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族様同伴による外出・外泊については柔軟に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間定期的に運営推進会議の開催と防災訓練を行うなど地域の方との協力を仰ぎながら支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて検討していきます。法人内でもあり、病院の栄養管理課・言語聴覚士等よりサポートも時に受けています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を設け情報提供に努めつつ、必要に応じて協働します。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設でもあり容易に受診し医療によるフォローを受けられるよう支援しています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	高島病院Dr(認知症について知りえた医師)から適宜診察されたいいただき、速やかに治療を受けられるよう努めています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホーム内に看護師の配置はしていますが、法人内高島病院の外来看護師からも適宜、サポートを受けられるように努めています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関へ入院になられた場合、担当のDr・看護スタッフの方と情報交換(治療内容と期間)を行い、家族様と協議の上で正式に退居か、若しくは退院後再入居かを決定します。適宜情報交換は取り続けます。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療によるフォローが必要な場合、家族様と担当医及び管理者と共に協議し方針を共有しています。	○	これからは、重度化・終末期の指針について協議の上で改めて作成し方針を共有できるように努めます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病状が悪化し医療によるフォローが必要な場合、当ホームで対応できるか・できないかを協議の上で見極め取り組んでいます。	○	病状の理解と対応等の勉強会を行い全職員が偏りなく対応できるように努めます。これからも終末期については検討して行きたいと思えます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別医療機関、または施設に移り住む場合、サマリーを作成し情報提供に努めています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に努めています。また関りの中では距離感を伺いながら言葉掛けの質を使い分け、信頼関係を築けるように努めています。ただしこれからは、慣れ親しむ言葉から慣れ過ぎることで注意力が散漫にならないように気をつけて関わらせていただけるよう努めます。	○ 入居者様のプライバシーを守ったうえで働きかけるよう努めます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者様は出来るだけご本人の自己決定の下過されるよう支援しています。自己決定されにくい方にいたっては職員から提供しています。ただし、自己決定されるにいたらず提供が一方通行になることがときに伺えます。	○ 自己決定されるよう【そそる】関りを提供していきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームの日課は基本自由に過ごされるよう勧めています。遠方への外出希望の際は、職員付き添いにて外出されるよう努めています。希望に添った支援に取り組んでいます。	○ 希望の表出が困難な方には、言葉に出せる工夫・欲(希望)を言葉にする手立てを考慮し提供するよう努めます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整髪・化粧・衣類等お洒落を重点にアプローチしています。また理美容については専用の理容店に依頼し理容されています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様・職員と共に準備・後片付けを行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様が好まれるもの事は出来る限り支援しています。現在、入居者様の中に飲酒される方がおられます。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の意思の下誘導することを基本にしています。しかし意志表示が乏しい方にいたっては2時間置きに誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在はホームで設定している入浴の曜日・時間に合わせて入っていただいています。ただし入居者様の希望の際にはその時間に合わせて入浴させていただいています。	○	日中夜間問わず入居者様が希望とする期間・時間で入浴されるように努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか休めない方には、適宜、足浴・ホットミルクの飲用・共に談話するなどその方に合わせ心地よく入眠される手だてを考え取り組んでいます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お若い頃、畑を作っておられたことで畑に携わって頂いたり、花生けの経験がある方にその機会を設けるなど支援しています。しかし生活歴を聞き出してはいるもののGHの生活にすべて活かしていない部分があると思われれます。	○	生活歴を再度更新していきホーム内で活かせる役割等を提供していくよう努めます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は少し買い物が出来る程度の金額は入居者様の手元に持っていただいています。金銭管理がかなり難しい方においては事務所で保管し、いつでも使えるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良いときにはできるだけ屋外には自然環境にふれる機会を設けています(ホームは完全開放にしていますのでいつでも屋外へ足を運ぶことが出来るようにしています)。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	おおよそ1~2ヶ月に1回はバスハイク(県内)を行います。その際に家族様にも参加させていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様希望の際電話させていただいています。掛け方が分からない方には職員が仲介に入りかけていただいています。	○	今後は手紙を直筆で書いて送っていただけるよう働きかけたいと思います。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	完全開放の玄関で出入り容易な作り。どなたでもお立ち寄りできるように心がけています。入居者様の家族様・ご友人の方多数ご面会させていただいています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な入居者様は居られません。今後も身体拘束をいたさないよう関わり重視でメンタルサポートに努めます。	○	生活状況の中で精神面のリスクが高い方(自傷の恐れがある方)にとって身体拘束が必要になる方のためにマニュアルを作成し、状況によっては協議の必要があるとも思いません。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は完全開放し、いつでも屋外へ足を運ぶことが出来るように働きかけてます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時入居者様の生活状況を把握するよう心がけています(日中3名以上の職員配置でチームで支えるように支援しています)。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居当初は必ずご自分で所持されておられる物品の確認をいたします。また、適宜確認をし危険を及ぼすような品物には確認と必要であればホーム側で保管することも検討いたします。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一同事故を起こさぬよう心がけておりますが、平成19年9月14日転倒による事故が発生し、別病院にてOPを受けられました。	○	事故を起こさぬよう職員一同周知徹底してまいります。事故防止策を考えるべく適宜会議を設け、事故を引き起こさないよう努めます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	擦過傷・表皮剥離等についてはホームに保管しているガーゼ保護を行い、速やかに病院外来受診し処置を受けます。また、急変時は速やかな外来受診、心肺蘇生法等必要な場合全職員が行えるようホーム内・外で研修・デモストを徹底しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の防災訓練(通報・消火・避難)を行っています。ただし、地震・水害時の避難方法並びに防止策を協議したいと思います。	○	地震・水害等の避難・防止策を協議したいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常時家族様には入居者様の現況を報告しています。今後も当然ながら抑圧感のない暮らしを大切にしていきます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様の体調の変化・異変の発見時は速やかに病院外来に受診をし、その後の対応を担当医と情報の共有に努め全職員と情報の共有に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の服薬の理解はできています。ただし、副作用・用法用量についてはもう一度見直し理解する必要があります。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘症の入居者様には内服による排便のコントロールと水分の出納・食事形態の工夫(米飯→全粥+軟菜への変更)・適度な運動をすすめ便秘防止策に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔内ケア(歯磨き・義歯洗浄等)の周知徹底に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取状況・水分摂取状況の把握に努め、しっかりと確保できるよう働きかけています。また状況に応じてDr・病院の管理栄養士・言語聴覚士にサポートを仰ぎ入居者様の支援に取り組んでいます。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対策マニュアルを作成し予防に取り組んでいます。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常時賞味期限と品質のチェックを行い、毎日トイレ・洗面所・台所用品に熱湯及びハイター(次亜塩素酸ナトリウム)消毒、食前の手指消毒にて食中毒予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関らしく高さを設けた構造になっています。手すりの設置で安全面と確保は出来ています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・和室が共有スペースですが、常時その3箇所できいろいろと取り組んでいることもあり、自然に入居者様同士過されています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で自然に集まりあって談話が図れています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かし、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ご自宅で過されていた頃の愛用の品々は持ち込んでいただき、居心地やすく過ごされるよう支援しています。ご自分での模様替えが難しい方及び愛用の品々をお持ちでない方には季節感がでる物を提供し、また家族様に持ってきていただき居心地のよい生活の場を提供しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	細めに空調・換気を行い居心地のよい環境づくりに取り組んでいます。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内は箇所箇所に手すりを設置し自立した生活が送れるよう支援しています。しかし、入居者様の身体状況の変化に合わせた環境の工夫が今後必要になると考えられます。	○	入居者様の身体状況に合わせた環境の工夫(手すりの設置増加等)が今後必要と考えます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	入居者様の生活力(認知能力・理解力・記憶力を含む)を活かした役割を見出し取り組んでいただいています。しかし入居者皆様が自立して暮らせる工夫が必要だと思えます。	○	生活歴を活かした役割等を見出し、日々取り組んでいただきながら自信につなげ生活の欲へと向かえるよう支援し、少しでも自立した生活が送れるように努めたいと考えます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ホームの縁側・芝生・畑等自由に散策できるように努めています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①高島病院併設でもあり、病状の悪化または身体の変調に応じて容易に外来受診・治療を受けることができます。また法人内に配置している各専門職より助言・サポートを受け、適切な処置・方向性を見い出せるよう努めています。
- ②当ホームでは、年間行事及び月々に企画しているバスハイク等の催しに、家族様にも御参加いただき、共に楽しむ機会を設けています。また、介護が職員からの一方通行にならないように、家族様と共に行いたいと考えています。